番外編

アトピー性皮膚炎　新しい治療も含めて

皮膚科　安永 真規子

Q. アトピー性皮膚炎ってどんな病気？

A かゆみを伴う皮膚炎が良くなったり悪くなったりを繰り返します。
もともとは皮膚の乾燥やバリア機能の異常があり、そこへ様々な刺激やアレルギー反応が加わって発症します。

患者さんの多くは家族歴や喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎などの既往歴があります。

Q. ステロイドを塗り続けるのが怖いのですが？

A ステロイド外用はアトピー性皮膚炎の治療の基本となりますが、ステロイド外用薬について誤った印象を持たれている方はいらっしゃいます。
たとえば「ステロイドを塗ると黒くなる」というのは炎症後の色素沈着のことでステロイド外用による副作用ではありません。
ほかに「ステロイドを塗り続けると効かなくなってくる」ということもありません。
ステロイド外用薬には強さのランクがあり、症状や部位に合わせて適切な強さの外用薬を塗る必要があります。皮膚炎が落ち着いてくれば、ステロイド以外の外用薬も選択肢になってきます（詳細は新しい治療に）。

Q. どのように薬をぬればいいの？

A 1日2回（朝と入浴後）適量を外用することが原則です。
人差し指の先から第一関節部までチューブから押し出した量が、手のひら2枚分の面積を塗るのに適した量です。
ステロイド外用薬などに加えて保湿剤によるスキンケアも重要です。

Q. プロアクティブ療法って？

A プロアクティブ療法とは、繰り返す皮疹に対してステロイド外用薬やタクロリムス軟膏など抗炎症外用薬で皮膚の状態を落ち着かせた後に、週2回など定期的に薬を塗ることにより皮膚の良い状態を維持することです。

Q. 新しい治療って？

A アトピー性皮膚炎の治療はスキンケアをベースにステロイドやタクロリムスなどの外用薬がメインでしたが、近年デルゴシニチブ、ジファミラストといった比較的安定している方にステロイドの使用を減らす目的にステロイドに置き換えて使えるような外用薬も発売されています。
内服薬としてはステロイドやシクロスポリンという免疫抑制剤が従来からありましたが、新しくJAK 阻害薬というアトピー性皮膚炎の症状に関与する炎症性サイトカインの働きを抑えることにより皮疹やかゆみを改善させる内服薬の処方が可能になりました。JAK 阻害薬は効果発現が早いのが特徴です。内服前及び内服後は定期的に血液検査、画像検査が必要になります。
最後にデュピルマブやネモリズマブといった抗体製剤の注射薬が数年前より承認されています。これらもアトピー性皮膚炎に関与する炎症性サイトカインの働きを抑える作用があります。デュピルマブは2週間に1回の注射で自己注射も可能、ネモリズマブはかゆみに特化しており4週間に1回の注射になります。
ここ数年でアトピー性皮膚炎の治療は大きく進歩しております。従来の治療で改善が乏しい方も一度ご相談にいらしてください。

皮膚科外来　月～金曜日
月・金：午前・13：30～16：00、
火・水・木：午前のみ
※木曜：新患受付は10：30まで